

## 皆野町有形民俗文化財 小林コシクシヨシ見学

美の山の登り口にある皆野町農山村具展示館は、昨年から月1回の開館の際、見学しました。

隣の小林コシクシヨシは、どんな内容なのか興味をもっていました。5月30日、今回、見学の機会があったので参加してきました。

このコシクシヨシは、町内小林抛英氏が大正末年より長い年月をかけて収集されたものです。

考古資料から民俗資料までその数は膨大なものです。

そのうち民俗資料の一部が、昭和42年6月 秩父の山村生産用具



238点「46年12月 荒川水系漁撈用具252点」として重要民俗資料 現重要有形民俗文化財への指定を受けました。

指定当時、文部省から 質量ともにそなわったもので、きわめて周到な用意のもとに綿密な注意の上、収集、整理されており、よく地域的特色を示すものとして重要である」との高い評価を得たものです。

山村用具、漁撈用具は、秩父地方の人たちの山や林業、荒川水系と人々の生活がわかる貴重な資料です。

多くの人々に観てもらってこそお宝です。

秩父郡市などと連携した定住自立圏の共同の観光資源として生かすことも一案では？。

## 原発ゼロをめざす 中央集會に参加！

6月2日、医療生協さいたま秩父の皆さんとバスで集會場の明治公園に。この世論調査も 原発ゼロの聲が国民多数の声です。

原発事故から2年3カ月たった今、破損した原子炉から放射線物質に汚染された汚染水の処理が大問題になっています。事故の原因は解明されず、収束や廃炉のめども立たず、いまだに15万人を超す福島県民が避難したままです。

連帯挨拶で、首都圏反原発連合のミサオ・レッドウルフさんは「一人ひとりの力は小さくても集まれば政府を動かせる。私たちの世代で原発ゼロの政策に転換させるため、力を合わせていこう」と語りました。



## 新米議員のひょうしん

常山 知子



5月19、20日、多摩住民自治研究所主催第13回 議員の学校」に参加しました。

全国から大勢の議員が来ていました。ここで紹介するのは 地域経済を支える気仙沼信用金庫の取り組みです。

「魚の町」は守れるのか？信用金庫の20日」と題してNHKスベシヤルで放映。密着取材をつけた常務理事芳賀さんの話です。ご覧になった方もいると思います。

気仙沼信用金庫の営業エリアは、気仙沼市、南三陸町、大船渡市、陸前高田市と震災の被害が大きかったところ。12店舗のうち10店舗が被災。残った2店舗で震災の3日後には営業を再開。徒歩や自転車で業者のところを訪問 やる気が担保「そういう人には支援 融資する。理論理屈ではない。地域の金融機関として、魚の町を自分たちが守る。まだまだこれから 課題はたくさんあります。芳賀さんは、月一回は隣の家に行ってお茶飲みをし、世間話をする。お互いの敷居が低くなる。そうした毎日の取り組みが大事です。と話します。

これはまさに「議員活動」にあてはまる話でした。

真実を伝え、暮らしに役立つ新聞赤旗

日刊紙 月 3400円  
日曜版 月 800円

生活・法律相談

町議会議員

電話・FAX

お気軽にご相談下さい

常山 知子

62-6733